

令和6年6月10日

沖縄県議会議長

赤 嶺 昇 殿

派 遣 議 員

1 県内要請

団 長	又 吉 清 義
	山 内 末 子
	渡久地 修
	照 屋 守 之

2 県外要請

団 長	又 吉 清 義
	仲 村 家 治
	山 内 末 子
	島 袋 恵 祐
	照 屋 守 之

「うるま市石川における自衛隊訓練場整備計画の白紙撤回を求める
意見書」の要請議員団報告書

上記のことについて、別紙のとおり報告します。

別紙

「うるま市石川における自衛隊訓練場整備計画の白紙撤回を求める意見書」
の要請議員団報告書

1 派遣議員

県内要請 団 長 又 吉 清 義
山 内 末 子
渡久地 修
照 屋 守 之

県外要請 団 長 又 吉 清 義
仲 村 家 治
山 内 末 子
島 袋 恵 祐
照 屋 守 之

2 派遣目的

令和6年第1回議会（2月定例会）の3月7日の会議において議決された
上記意見書の趣旨を関係要路に要請するため。

3 派遣期間

県内要請 令和6年3月13日（水）（1日）

県外要請 令和6年3月25日（月）及び3月26日（火）（2日間）

4 要請日程

別紙のとおり

5 要請概要

団長が意見書の趣旨を説明した後、うるま市石川における自衛隊訓練場整備計画を白紙撤回することについて強く要請した。

6 要請における対応者の主な発言及び質疑応答の概要（要請順）

＜県内要請 令和6年3月13日（水）＞

○ 沖縄防衛局長 伊藤 晋 哉

うるま市石川における自衛隊訓練場整備計画について、防衛省としては沖縄本島に所在する陸上自衛隊第15旅団の師団化を計画しており、これに伴い追加的に発生する訓練や物資集積等が必要となることから、うるま市における訓練場の整備計画について、地元の説明させていただいた。

本事業については、現時点において計画を白紙にするという考えはないが、現在、住民生活との関係を重視するという観点から、取得後の土地利用の在り方について改めて検討を行っているところである。

現時点で、具体的な検討状況をお答えできる段階ではないが、結論が得られ次第、地元の皆様説明していく予定である。

本日いただいた御意見を含め、地元からの厳しい御意見については、防衛省としてしっかりこれを受け止めていかなければならないと考えており、防衛省内の関係部署に伝え、検討してまいりたいと考えている。

（質疑応答）

Q 去る12月に防衛局から地元に対し、ヘリの離着陸訓練などの説明もあったが、近隣には子供たちが宿泊学習する施設があり住宅地である。局長として危険ではないかという考えはなかったのか。

A 現地を拝見させていただき、青少年施設があり住宅地に近接している場所だということはしっかり把握はしたつもりである。

緊急時を除きヘリの離着陸はしないと説明させていただいているが、地元の懸念や意見についてしっかり受け止めて、幅広く検討していくことが必要であると思っている。

Q 住民生活に影響がないよう訓練の見直しを行うとのことだが、訓練場整備計画の白紙撤回はしないということか。

A 現時点において、計画を白紙にするという考えはないが、地元の懸念や意見をしっかり受け止めて、幅広く検討していく必要があると思っている。

Q うるま市や地元住民も納得しておらず、最初から非常に厳しい状況の中で意思決定して進められているので、白紙に戻すべきである。基地問題に対する沖縄の県民感情等も踏まえて、防衛省内でもう一度検討し白

紙撤回してもらいたい。

A 議員の発言も含めいろいろな形で厳しい意見をいただいているので、しっかりと受け止め、防衛省として検討するようしっかり伝える。

Q 今回、県議会の与野党が全会一致で議決した白紙撤回を求める意見書をどのように捉えているのか。地元の大きな運動、市長も反対し建設断念を求めていることを重く受け止めて白紙撤回していただきたい。

A 県議会において当該意見書が全会一致で議決されたことは大変重く受け止めている。

防衛省としての回答は、私の立場からは申し上げているような回答にならざるを得ない。本日頂戴した御意見含め、大変厳しい意見を各所からいただいております、これらをしっかりと受け止め、防衛省として検討するよう伝えさせていただく。

< 県外要請 令和6年3月25(月)及び3月26日(火) >

○ 内閣府副大臣 工藤彰三

大臣不在のため、工藤彰三内閣府副大臣へ手交した。

所管は防衛省であるが、内閣府は沖縄振興という大事な役割があるので、防衛省へしっかりと伝えさせていただく。

地図で建設場所の位置を見させていただいたが、これだけ住宅があり、青少年の家に隣接している。場所の選定については私が言うことではないが、いかなものだったのかというのが私の思いである。

防衛省も何をもって選定されたのか、うるま市の皆さんときちんと話をし、地元の声に耳を傾けなければならないと思うし、この要望を重く受け止め伝えたい。

○ 防衛大臣 木原稔

防衛省としては、南西地域の防衛体制強化を重視しており、令和9年度までに、沖縄所在の陸上自衛隊第15旅団を師団に改編する計画をしている。

師団に改編するということは普通科連隊が1つ増えるということであり、当然、人が増えることになるので訓練をしなければならず、訓練場が不足するということになる。また、物資の集積等も含めて様々な土地利用の需要が発生する見込みである。

こうした観点から、防衛省としては沖縄本島内で候補地を探していく中で、先般、うるま市における訓練場の整備計画について、地元の説明させていた

だいた。

今回、意見書をいただいたが、今この場で計画を白紙にするということは申し上げられない。現在、取得後の土地利用の在り方について、改めて検討を行っているところであり、具体的な状況についてお答えできる段階にはないが、沖縄県議会議員団の皆様がおいでいただいたということをしかりと受け止めなければならないと思う。

うるま市長はじめ地元の声、自民党沖縄県連からの見直し検討の要望、県知事からの白紙検討の要望、断念を求める集会の開催、本日の要請等も踏まえて、最終的に、もう一度検討した結果をお伝えすることになるかと思う。御理解をお願いしたい。

(質疑応答)

Q 当該地域は生活する場、教育環境や子育て環境としても最適な場所である。今回の無謀なやり方について、住民は憤りを感じているし、白紙撤回ということで県全体へと大きな運動の広がりとなると思う。訓練場ありきでなく断念を強く要望する。

- ・ 今回の訓練場整備計画については、予算が成立する前に一旦白紙に戻すか撤回してもらいたい。
- ・ 今回の訓練場整備計画については地域住民自治会が声を上げて、立場を超えて集会にも1200人以上集まった。地域住民が求めているのは白紙撤回であるので、訓練場を建設しないということを明確にしないと地元住民や県民は納得しない。
- ・ 県議会のいろいろな意見がある中の最大公約数がこの意見書である。全会一致で議決したことは大変大きな意義があるので新たな建設場所の選定をお願いしたい。

A 第15旅団は、安全保障、南西地域の防衛を主に担っており、不発弾処理、離島の急患輸送、災害派遣等、沖縄県民に対し貢献していると思う。これらの予算は訓練上必要であり確保しておかなくてはならない。予算を通した後の判断になるということは、御理解いただきたい。

別紙

要 請 日 程

県内要請 令和6年3月13日（水）

月 日	曜日	時間	要 請 先 等	場 所
令和6年 3月13日	(水)	11:30 ∩ 12:00	沖縄防衛局長 伊藤晋哉	沖縄防衛局

県外要請 令和6年3月25日（月）～26日（火）

月 日	曜日	時間	要 請 先 等	場 所
令和6年 3月25日	(月)	20:05 ∩ 22:20	那覇空港発（JAL920便） 羽田空港着	
3月26日	(火)	10:45 ∩ 11:00	内閣府副大臣 工藤彰三	内閣府 副大臣室
		16:15 ∩ 16:30	防衛大臣 木原稔	防衛省 会議室
		20:00 ∩ 22:40	羽田空港発（JAL925便） 那覇空港着	